

# 株式の状況

株式数及び株主数 (平成26年3月31日現在)	
発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	1,950,000株
株主数	806名

大株主 (平成26年3月31日現在)		
	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	990,000	50.8
セイコーインスツル株式会社	408,000	20.9
ジーダット従業員持株会	59,500	3.1
株式会社SBI証券	34,700	1.8
株式会社ジーダット	30,000	1.5
日本証券金融株式会社	18,200	0.9
株式会社エスケーエレクトロニクス	9,000	0.5
株式会社図研	9,000	0.5
大日本印刷株式会社	9,000	0.5
櫻井春樹	8,000	0.4
増山雅美	7,500	0.4
宗形恒夫	7,500	0.4
香月弘幸	7,500	0.4

所有者別状況 (平成26年3月31日現在)		
所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	18,400	0.9
証券会社	54,115	2.8
その他国内法人	1,425,000	73.1
外国法人等	24,900	1.3
個人・その他	397,585	20.4
自己名義株式	30,000	1.5
計	1,950,000	100.0



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル Tel : 03-5847-0312 (代)  
当冊子に関するお問合せ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

株主メモ		
上場市場	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
配当基準日	3月31日	
株式の売買単位	100株	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
	証券会社に 口座をお持ちの場合	証券会社等に 口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部	
電話お問合せ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)	
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受 取り方法の変更等)	お取引の 証券会社になります。	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 ※カスタマープラザではお取扱でき ませんのでご了承ください。
		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱でき ませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行につい ては、右の「特別口座 の場合」の郵便物送付 先・電話お問合せ 先・各種手続お取扱 店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできま せん。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく 必要があります。
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 ( <a href="http://www.jedat.co.jp/">http://www.jedat.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公 告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載 します。	

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた、活気にあふれる日本橋です。日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。

UD  
FONT 見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

# 第12期 株主通信

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日





JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、  
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、  
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

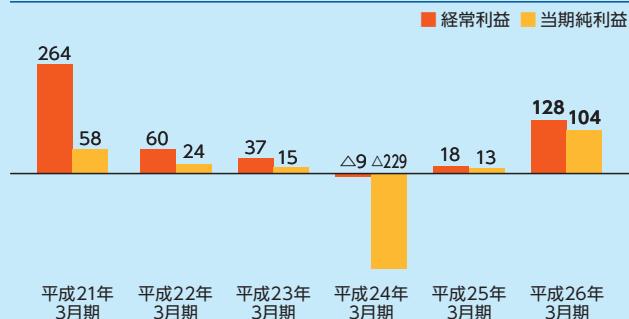
## 財務ハイライト

(単位：百万円)

### 売上高・研究開発費



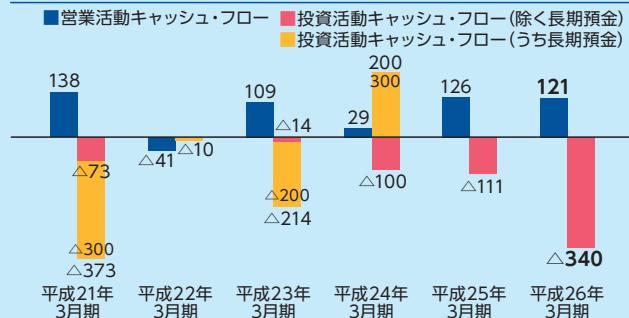
### 経常利益・当期純利益



### 総資産・自己資本



### キャッシュ・フロー



## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第12期は、4期続きました営業利益赤字からの脱却を目指して、4月1日の子会社の吸収合併にはじまり、年間を通して様々な施策を実施してまいりました。当社の主要顧客である半導体およびFPD (Flat Panel Display) 等の国内電子部品業界は未だ先行きの不透明感は拭い切れないながらも、比較的好調なパワーデバイス、タッチパネルや高精細ディスプレイ分野への集中投資や、海外売上拡大のための施策などが徐々に効果を現し、5期ぶりに営業利益、経常利益とも黒字化を達成することができました。

連結売上高は前期比14.7%増の1,376百万円、営業利益は79百万円（前期は営業損失96百万円）、営業外収益として助成金収入等を計上した結果、連結経常利益は1億28百万円（前期比606.7%増）、連結当期純利益は1億4百万円（前期比650.2%増）となり、当初計画も上回る結果となりました。

国内半導体業界、FPD業界は、回復の兆しがある分野がある一方で、依然としてリストラや業界再編のニュースも続いており、業界全体としての縮小傾向は継続しているため、予断を許さない状況であると捉えております。

こういった厳しい状況の中ではありますが、第13期における当社の目標は、安定した収益体質に復帰することを目指して、売上高の更なる拡大と営業利益の1億円越えといたしました。

それを達成するための施策として、まず1つ目は、当社主力製品である「α-SX」の更なる機能・性能強化です。好調分野である自動車・携帯機器分野に向けた解析系ツールの強化、ならびに最先端アナログ設計用の新製品の早期市場投入を行います。更に、新規代理販売製品のラインナップの拡充も引き続き

行い、自社開発製品との補完を充実させることでトータルの設計環境をご提供し、売上拡大を狙ってまいります。

2つ目は、海外市場販売力の継続的な強化であります。昨年設立した上海の販売子会社のバックアップはもちろん、韓国、台湾の代理店との関係の強化や米国における新たな販売代理契約など、積極的な海外展開に向けた施策を行ってまいります。また、今年もEDA業界最大の展示会Design Automation Conference (米国：サンフランシスコ) へ出展し、最先端アナログ設計用新製品を世界へ向けてアピールいたしております。

3つ目は、昨年立ち上げたソリューションビジネスの売上と範囲の拡大であります。カスタムソフトの受託開発やお客様のトータルな設計環境をカスタマイズするソリューションの受託開発に加えて、今年新たにEDAアウトソーシングビジネスと、デザインセンタービジネスの立上げも進行させております。長年のEDAツールの開発・サポートにより培われた強みを生かして、お客様に新たなソリューションをご提供してまいります。

引き続き厳しい状況は予想されますが、株主の皆様におかれましてはより一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
河内 一往

特集 ソリューション部チーフエンジニアに聞く

# 新製品MatChartと モデルベース設計分野への展開

2013年12月、ジューダットはMATLAB®/Simulink®向け波形解析ツール：MatChartの販売を開始いたしました。MATLAB/Simulinkは、数学的計算で業界をリードする世界的なソフトウェア開発会社、MathWorks(マスワークス)社の、モデルベース設計におけるデファクトスタンダード的なツールです。MatChartはそのMATLAB/Simulinkに向けた波形解析ツールで、ジューダットがこれまでEDA設計ツール開発において培った技術を投入しており、ジューダットのモデルベース設計分野への進出の第一歩と位置づけております。新製品のMatChart、そしてモデルベース分野への進出の可能性について、当社ソリューション部チーフエンジニア 井上賢に聞きました。

## 自動車・航空機設計等の分野で急速に 普及しているモデルベースデザイン

モデルベースデザインとは、我々がプログラム開発で使っているC/C++というプログラミング言語よりもさらに高級な記述言語を使って、設計対象をモデル化（抽象化・簡略化）し、各段階でシミュレーションを繰り返して精度を高めながら設計していく手法です。ここで「高級」というのは抽象度が高いという意味で、例えば数式をそのまま記述することができます。対象を抽象度が高いまま記述することができるため、設計・開発の効率が上がり、主に自動車・航空機等の分野で急速に普及しています。そのモデルベースデザイン設計ツールの市場で大きなシェアを占めているのが、米国マサチューセッツ州に本社を置くマスワークス社です。特に自動車業界では電気/電子に関する機能安全についての国際標準規格（ISO26262）にも対応しており、世界で広く使われています。

一方、ジューダットが保有している波形解析の技術はアナログ半導体回路の解析分野においてこれまで多くの実績があり、その技術はモデルベース設計・開発の分野でも大いに活用が可能です。そ

こで今回、モデルベース設計分野への進出の第一歩として、MATLAB/Simulink向けに開発した波形解析ツールがMatChartです。

## MatChartは 波形解析のスペシャルツール

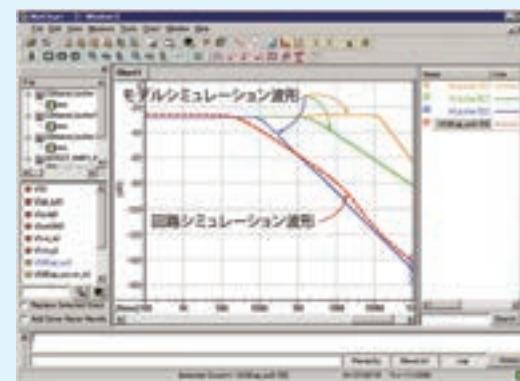
MatChartは、MATLAB/Simulinkが出力する波形ファイルを読み込み、波形を表示します。表示するだけでなく、簡単なカーソル操作で値を計測することができます。容易に波形解析・分析ができます。波形とは、例えばX軸に「時間」をおいた時に、Y軸に置いたもの、例えば電圧や電流、角度、パワー、距離など、様々なものが、時間の変化に対応してどう変化するかを表示するものです。何を軸にするかで、数値化できるあらゆるものが波形になり得ます。つまり、波形にさえ出力できれば、波形同士で比較検証ができる、ということになります。例えば、モデルベースデザインレベルでシミュレーションし出力した波形と、アナログ半導体設計でよく使われているSPICEという回路シミュレータが出力した波形の比較も簡単です。2つの波形を読み込み表示させれば、簡単に解析を行うことができます。このように、抽象度が異なる



ソリューション部  
チーフエンジニア  
井上賢

レベル間の検証に対してソリューションを提供できるツールであることが、MatChartの大きなポイントです。

また、MatChartは波形データの表示スタイルを変えることができます。同じ波形を別表現させることによって、別の見方をした解析が可能になります。MATLAB/Simulinkの環境では、別の波形を出力するためにはモデルの変更やシミュレーションのやり直しなどが必要でしたので、MatChartを使用することで、これらにかかる時間や工数を大幅に削減することができ、多種多様な解析を素早く行いたいというニーズには最適なツールです。



## MatChartの可能性

今回開発したMatChartはMATLAB/Simulink向けのものでありますが、ジューダットの波形解析の技術は、他の設計言語（ツール）への対応も可能です。同じ「波形」で考えることにより、今後は異なる設計言語で書かれたデータ同士の比較などへの応用も可能です。また特定のお客様へ向けて、異なる言語間でモデルを移植したり、実績のある回路図のモデル化を行うなど、カスタムツールによるモデルベースデザイン設計ソリューションのご提供なども視野に入れております。

MATLAB/Simulinkをはじめとする「モデルベース設計」という手法は、自動車業界だけではなく、信号処理や、携帯通信、画像処理や動画処理、医療、金融工学、アルゴリズム開発など、多種多様なところで利用されています。ジューダットのMatChartは今後、自動車や航空機設計の分野だけではなく、あらゆる業界で活用できると確信しています。なぜなら、MatChartは波形を扱うツールですので、設計の対象が何であれ、また仮に抽象的なものであったとしても、実際の装置を計測機器により測定したもので、出力を「波形」にすることでその等価検証を容易に行う事ができるからです。

モデルベースデザインデータを「波形にして比較検証したい」というニーズが業界や分野を問わず全世界共通である以上、MatChartの波形解析技術の対象もまた無限に広がっていると信じております。

**MatChartはMathWorks社Connections Programにも承認され、今後はMathWorks社の公認ツールとして同社のホームページにおいても紹介される予定です。MatChartのモデルベース設計分野への進出の第一歩です。**

※MatChartの機能につきましては、P9の「トピックス」で詳しくご紹介しております。

# 業績の概要

## ■当初計画を上回る売上高、5期ぶりに営業利益が黒字化

当連結会計年度における、当社の主要顧客である半導体およびFPD（Flat Panel Display）等の国内電子部品業界は、一部の自動車や携帯端末関連の好調分野を除くと、採算面で非常に厳しい状況からスタートしましたが、下期に入り、国内および海外における緩やかな景気回復基調や円安傾向等に支えられて、徐々に業績回復の兆しが見られるようになってまいりました。しかしながら業界全体としては、主要企業間の再編成および人員削減等の施策を現在も実施中であり、先行き不透明感は拭い切れていない状況です。

こういった状況の中、当社企業グループは、国内市場向けでは、従来から好調なパワーデバイス、メモリ、イメージセンサー、タッチパネル、高精細ディスプレイ分野にフォーカスして、解析系ツール群を中

心に販売活動を行いました。また自動車業界に向けたソリューション・ビジネスの立上げを実施して着実に売上の一助としました。海外市場向けにおいては、新開発の製品を国際的な展示会に出展するとともに上海に販売子会社を設立して、販売力の大幅強化に努めました。その一方で固定費に関しては、北九州の研究開発子会社の吸収合併、外注費削減、および北京の開発子会社の譲渡等の施策により、圧縮を図りました。

その結果、前連結会計年度から継続していた商談を獲得したことに加え、海外市場向けの売上が伸び、さらにNEDOからの助成金もあったことから、当連結会計年度においては、当初計画を上回る業績となりました。当連結会計年度における連結売上高は

(単位：百万円)

	平成23年3月期業績		平成24年3月期業績		平成25年3月期業績		平成26年3月期業績		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	1,434	100.0%	1,331	100.0%	1,200	100.0%	1,376	100.0%	114.7%
売上総利益	1,006	70.1%	993	74.6%	976	81.4%	1,068	77.6%	109.5%
販売費及び一般管理費	1,021	71.2%	1,085	81.5%	1,073	89.4%	989	71.9%	92.2%
営業利益又は営業損失 (△)	△14	△1.0%	△92	△6.9%	△96	△8.1%	79	5.8%	—
経常利益又は経常損失 (△)	37	2.6%	△9	△0.7%	18	1.5%	128	9.3%	706.7%
当期純利益又は当期純損失 (△)	15	1.1%	△229	△17.2%	13	1.2%	104	7.6%	750.2%

13億76百万円（前期比14.7%増）、連結営業利益は79百万円（前期は営業損失96百万円）となりました。営業外収益として助成金収入他を計上した結果、連

結経常利益は1億28百万円（前期比606.7%増）、連結当期純利益は1億4百万円（前期比650.2%増）となりました。

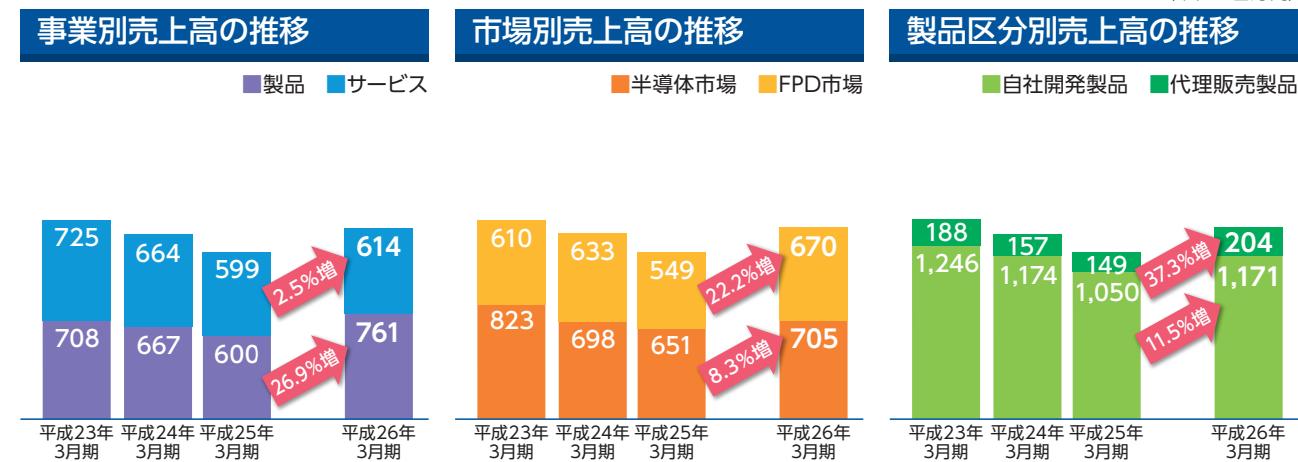
## ■好調分野・海外市場への販売強化により、自社開発製品の業績が大幅伸長

種目別では、製品売上高は、国内向けには、従来から好調な分野に絞って解析系ツール群を中心とした販売活動に注力したこと、海外市場向けには、上海における販売子会社の設立を始めとして、各国における販売力の強化に努めたことにより、7億61百万円（前期比26.9%増）となりました。サービス売上高は、国内市場縮小への対応策として、当連結会計年度から本格的に立上げたソリューション・ビジネスが順調に業績に貢献したこともあり、6億14百万円（同2.5%増）となりました。

市場別においては、半導体市場では、解析系ツ

ル群を中心とした販売活動により7億5百万円（前期比8.3%増）となりました。液晶パネル等のFPD市場では、中小型高性能パネルをターゲットとした販売活動や海外販売力の強化等の効果により、6億70百万円（同22.2%増）となりました。自社開発製品、代理販売製品の区分では、好調分野に対する解析系ツールの販売および海外市場の伸長により、自社開発製品が11億71百万円（前期比11.5%増）となり、代理販売製品は、品揃えを拡大したことにより、2億4百万円（同37.3%増）となりました。

(単位：百万円)



# 連結財務諸表

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,197,946	2,083,974
<b>4</b> 現金及び預金	1,984,213	1,819,440
受取手形及び売掛金	171,197	124,612
電子記録債権	—	72,824
たな卸資産	3,644	28,514
その他	38,891	38,581
固定資産	256,998	562,900
有形固定資産	21,831	23,273
無形固定資産	9,237	19,188
ソフトウェア	9,237	19,188
<b>1</b> 投資その他の資産	225,928	520,438
投資有価証券	200,000	500,000
その他	25,928	20,438
資産合計	2,454,944	2,646,874

### 1 投資その他の資産

増加の主な原因は、投資有価証券3億円の取得によるものであります。

### 3 特別損失

当社の子会社であった績達特軟件（北京）有限公司の譲渡に伴ない、15百万円の売却損を計上いたしました。

科目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	264,018	320,855
買掛金	19,971	37,307
未払法人税等	6,490	18,112
賞与引当金	56,544	64,682
前受金	108,895	98,809
その他	72,116	101,944
負債合計	264,018	320,855
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,183,253	2,278,293
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	565,364	660,405
自己株式	△32,676	△32,676
その他の包括利益累計額	7,672	546
為替換算調整勘定	7,672	546
少数株主持分	—	47,178
純資産合計	2,190,925	2,326,018
負債純資産合計	2,454,944	2,646,874

### 2 営業外収益

助成金収入48百万円を計上いたしました。

### 4 現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円によるものであります。

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,200,154	1,376,339
売上原価	223,815	307,636
売上総利益	976,339	1,068,703
販売費及び一般管理費	1,073,174	989,509
営業利益又は営業損失(△)	△96,835	79,193
<b>2</b> 営業外収益	116,740	57,822
営業外費用	1,736	8,604
経常利益	18,169	128,411
<b>3</b> 特別損失	—	15,590
税金等調整前当期純利益	18,169	112,820
法人税、住民税及び事業税	4,220	17,553
少数株主損益調整前当期純利益	13,949	95,266
少数株主損失(△)	—	△9,373
当期純利益	13,949	104,640

## 連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
平成25年4月1日残高	760,007	890,558	565,364	△32,676	2,183,253	7,672	7,672	—	2,190,925
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△9,600		△9,600				△9,600
当期純利益			104,640		104,640				104,640
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△7,126	△7,126	47,178	40,052
連結会計年度中の変動額合計	—	—	95,040	—	95,040	△7,126	△7,126	47,178	135,094
平成26年3月31日残高	760,007	890,558	660,405	△32,676	2,278,293	546	546	47,178	2,326,018

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	126,976	121,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111,572	△340,821
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,600	46,406
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,662	8,042
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	14,466	△164,772
現金及び現金同等物の期首残高	1,069,746	1,084,213
<b>4</b> 現金及び現金同等物の期末残高	1,084,213	919,440

## 1株当たり情報

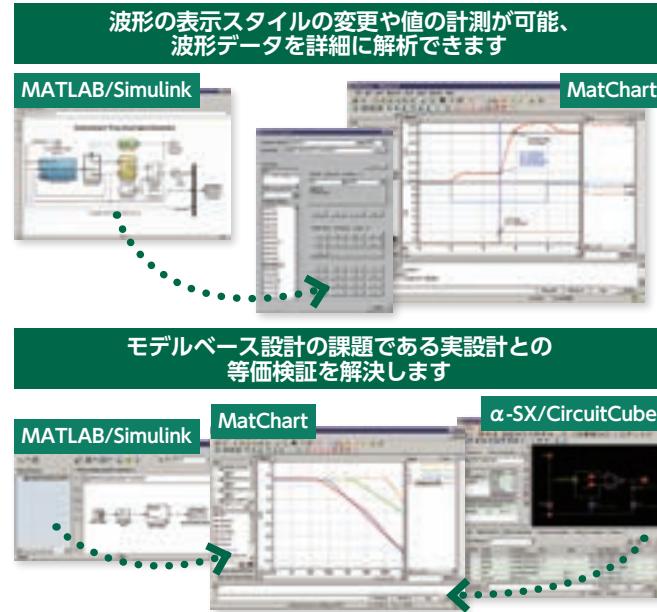
1株当たり純資産	1,186円90銭
1株当たり当期純利益	54円50銭

# トピックス

## MATLAB®/Simulink®向け波形解析ツール：MatChartの販売開始 モデルベース開発分野に進出

当社は、モデルベース開発分野に進出する第一弾として、自社開発製品であるMatChartの販売を開始いたしました。モデルベース開発は、自動車や電子機器等の大規模システムを効率的に開発する最先端の設計手法として現在注目されています。今後、自動車の電気制御系等の開発を対象にしたモデルベース開発から実装設計までの協調開発ソリューションを提供してまいります。MatChartは、MathWorks社のMATLAB/Simulink用の波形解析ツールです。

例えば、MATLABで設計したアナログ回路のトランジスタスペックをレファレンスとして、アナログ回路設計ツールに取り込み、実回路の最適化と回路解析の自動判定に応用するなどの分野で使用できます。またその逆も可能で、既存資産をモデルベース設計に移行する際に、実設計結果をレファレンスとしてモデルを開発するときにも適応できます。本製品はモデルベース開発市場に対する当社初の製品となります。



## 第51回 DAC(Design Automation Conference)に出展 再利用ベースのアナログ合成ツールを発表



当社は昨年に引き続き、米国サンフランシスコで開催されたEDA業界最大の展示会“The 51st Design Automation Conference (DAC2014)”に新製品を出展いたしました。

今回出展した「Reuse-based Analog Synthesis」は既存設計の再利用に特化した最先端のアナログ回路・レイアウト合成用EDAシステムで、回路の再設計とレイアウトの再設計の双方を扱っています。

今回の新製品のターゲットは、オペアンプやレギュレーター、コンパレーター、VCO、A-D変換器など、IC中に含まれるアナログ回路ブロックです。半導体メーカーや機器メーカーのIC設計部門に加えて、アナログICのファウンドリーも今回の製品の潜在ユーザーです。最先端プロセスの開発や既存プロセスの更新の際に回路ライブラリーの整備がファウンドリーの大きな負担になっており、今回の新製品はその軽減にも寄与いたします。

# 会社概要/役員

(平成26年6月18日現在)

## 会社概要

商号 株式会社ジードット (Jedat Inc.)

所在地 〒103-0004 東京都中央区東日本橋  
3-4-14 OZAWAビル

代表者 代表取締役社長 河内 一往

営業開始 平成16年2月2日

資本金 760,007,110円

事業内容 電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング

関連会社 愛績旻（上海）信息科技有限公司  
(AJM Technology (Shanghai) Co., Ltd.)  
上海市肇嘉浜路1065号飛雕国際大廈  
2303室

## 役員

代表取締役社長 河内 一往

取締役 田口 康弘

取締役 松尾 和利

社外取締役 尾崎 宗視

社外取締役 長谷部 邦雄

社外取締役 下田 貞之

社外取締役 山本 靖

社外監査役(常勤) 藤田 鋼一

監査役 中村 隆夫

社外監査役 鈴木 想一

社外監査役 津留 真人

※当社は、平成25年4月1日に北九州における開発会子会社であった株式会社ジードット・イノベーションを吸収合併いたしました。

※当社は、平成25年6月1日に中国上海を拠点とする販売子会社の愛績旻（上海）信息科技有限公司を設立いたしました。

※当社は、平成26年3月31日に中国北京の開発子会社であった績達特軟件（北京）有限公司の当社持分出資金の全部を、日本海隆株式会社に譲渡いたしました。